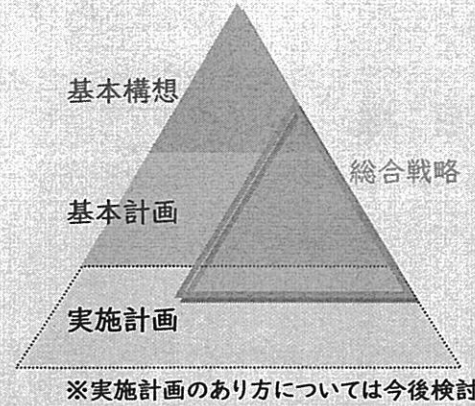


基本構想の骨子案について

基本構想骨子案の検討プロセス

次期総合計画策定の方向性

- ◆策定の背景：人口減少と超高齢社会、持続可能な行政経営、技術革新の進展、市民自治都市の実現
- ◆策定にあたっての4つの視点（各項目の内容を考慮し計画案に適切に反映）
 - ①市民みんなの総合計画（市民自治都市の実現）
 - ②行政経営の強化
 - ③岸和田市総合戦略との一体化とSDGsとの連動
 - ④技術革新がもたらす社会と技術の活用
- ◆計画の構成と期間：基本構想・基本計画・総合戦略で構成
計画期間は、2023年度を初年度とし、2034年度までの12年間
基本計画については、市長任期と連動し、4年ごとに見直し
- ◆達成目標（みんなでめざそう値）の設定



各種調査など

基礎調査

- 岸和田市の特性等の整理
- 各種意向調査からみる岸和田市の現状と市民ニーズ
- 行政評価分析
- 各種統計データの整理・分析
- 社会経済動向の把握・分析
- 上位・関連計画の整理

各種アンケート調査

- 市民アンケート：市内在住の15～74歳の男女4,000人を対象。回答数1,721件（回収率43.0%）
- 若者・子育て世代アンケート：市内在住の15～49歳の男女1,500人を対象。回答数599件（回収率39.9%）
- 地区市民協議会アンケート：市内24校区すべてを対象
- 職員アンケート：全職員（正職員）を対象としたアンケート調査、回答数940人分

事業者・団体ヒアリング

- 公益的な活動を行っている団体、活発に活動している団体やグループ、CSRなどに取り組む市内事業者を対象

第4次総合計画の振り返り（課題整理）

- 第4次総合計画の体系下で実施した事業の振り返りを中心に、これまでの成果とこれから必要になることを整理

まちづくり市民懇話会

- ◆令和元年度：「みんなの岸和田ビジョン」
- ◆令和2～4年度（とことん懇話会）
 - ステップ0：総合計画の理解を深める
 - ステップ1：岸和田の特徴を共有する
 - ステップ2：15年後の将来像を検討する
 - ステップ3：将来像の実現に必要なことを考える
 - ステップ4：計画を実現する進行管理を考える

主に基本構想に反映

主に基本計画に反映

基本構想骨子案【全体像】

1. 基本理念

「市民自治都市」の実現（岸和田市自治基本条例）
～自らの地域は自ら手で築いていこうとする意思を明確にし、自ら考え、行動する～
常に安心していつまでも住み続けることができる、個性豊かな持続性のある地域社会

2. 計画の概要

- (1) 計画策定の趣旨と視点
 - ・計画の根拠、計画の役割、策定にあたっての視点
- (2) 計画の構成
 - ・基本構想、基本計画、総合戦略
 - ・計画の期間
- (3) 計画の進行管理
 - ・PDCAによる計画の進行管理

3. 基本構想

- (1) 岸和田の特性
 - 位置と地勢、岸和田の成り立ち、地形の構造からみた特性、人口推計
- (2) 社会状況の変化
 - 人口減少・超高齢化時代への対応、持続可能性・多様性への対応（SDGs）、地球環境問題への対応、危機への備え（安全・安心）、技術革新への対応と活用、厳しい財政状況への対応
- (3) 将来像（めざすまちの姿）
 - 各種調査やまちづくり市民懇話会での議論を踏まえた「みんなでめざす12年後のまちの姿」を設定
- (4) 基本目標と“3つの戦略”
 - 将来像を実現するための基本目標と、岸和田を強くする“3つの戦略”を設定
- (5) 将来人口の方向性と都市構造
- (6) 施策体系図

4. 資料編 策定に向けて、策定のプロセス、関係例規

◆将来像に込めた思い

個性きらめき：人情味ある市民が多く、岸和田への愛着心やプライドが活かされている

魅力あふれる：海から山までの豊かな自然と古くからの歴史・文化、農業・漁業など、魅力ある資源が活かされている

ホッと：人にやさしく、いざというときにつながれる熱い心や、注目される熱い取組や場所があり（ホット）、住んでいても訪れても安心できる（ほっと）場所となっている

◆岸和田を強くする

“3つの戦略”に込めた思い

多様性を尊重しあう岸和田の絆の発展・活用：様々な分野で、すべての人が互いを認め合い、これまで築き上げてきた絆を発展させ、新住民や若い世代、事業者などが参加できる新しいコミュニティのあり方が実現され、まちづくりに活用されている

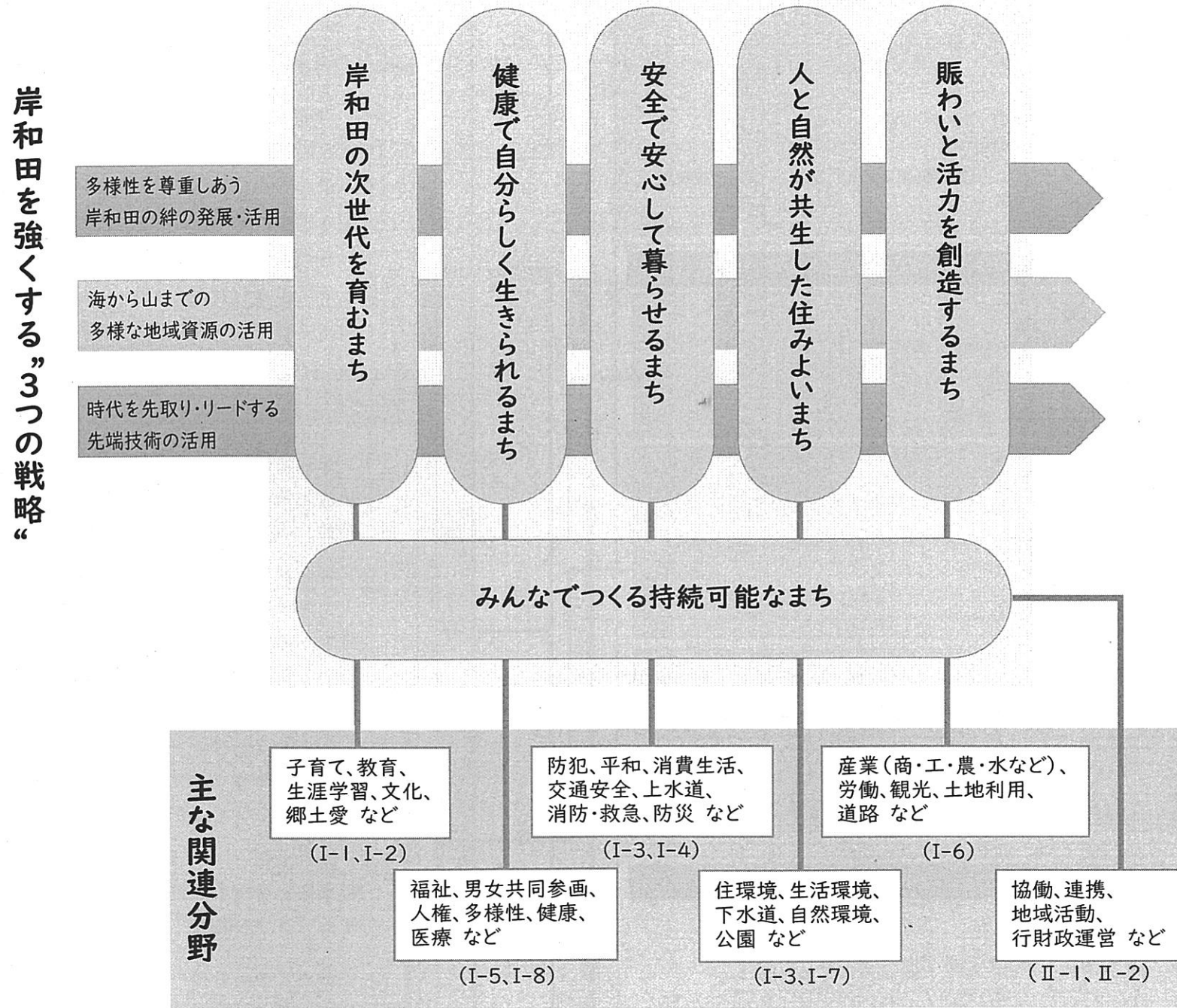
海から山までの多様な地域資源の活用：様々な分野で、海から山まである多様な資源がまちづくりに有効活用されている

時代を先取り・リードする先端技術の活用：様々な分野で、生活の利便性の向上や社会変化に柔軟に対応するため、情報技術が積極的に活用され、時代を先取りするとともに近隣地域全体をリードするまちになっている

将来像
(めざすまちの姿)

個性きらめき 魅力あふれる ホツとなまち 岸和田

基本目標



※主な関連分野の下部に、現行計画との関連性を示す体系番号を記載。

◆基本目標の設定の背景

岸和田の次世代を育むまち

資源：地元への愛着と人情味あふれる市民がいる、多くの社会教育関連施設や文化財が存在している

課題：少子化が進行している、子育て家庭に選ばれていない、教育や歴史・文化への関心が低く社会教育関連施設があまり活用されていない、待機児童が発生し働きやすい環境とはいえない、幼稚園の定員充足率が低い、施設が老朽化している

ニーズ：住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまちづくりが必要である

健康で自分らしく生きられるまち

資源：医療機関等が多く充実している、元気な高齢者が多い、地域コミュニティのつながりが強い

課題：高齢化が進行している、閉鎖的な面があり古い考え方が残っている、健康に対する意識が不十分で健康寿命が短い、高齢単身世帯が増加している

ニーズ：多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できる環境が必要である

安全で安心して暮らせるまち

資源：市役所の窓口（サービスセンター）が多い、交通の便がよく生活利便性が高い市街地がある

課題：災害への危機意識が低い、激甚化する災害への対応が求められている、山間部の交通の便が悪い、交通事故に対する不安が解消されていない

ニーズ：地域で安心して暮らせるまちづくりが必要である

人と自然が共生した住みよいまち

資源：海から山まで豊かな自然がある、公園が多い

課題：環境への負荷の低減やまちをきれいにする意識と行動が少ない、多様な資源をつなげる仕組みがない、公園や緑地の維持管理の負担が年々増加している

ニーズ：豊かな自然や生物多様性の保全と、まちの美化の促進や環境に配慮した行動が必要である

賑わいと活力を創造するまち

資源：府内有数の農業・水産業がある、技術力の高い製造業がある、歴史的な観光資源がある、岸和田特有の施設がある、関西国際空港との距離が近い

課題：地域資源等が観光や市のアピールに活かしきれていない、だんじり祭だけのイメージがある、市内での従事者が減っている、まちに活気が見られない

ニーズ：地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業発展や、生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上、広域的連携による賑わいの創出が必要である

みんなでつくる持続可能なまち

資源：町会などの地域のつながりが強い、地域で福祉活動が展開されている、地域に根付いた民間事業者がいる

課題：地元のつながりが強く転入者が入りにくい、新旧住民や世代間の交流の機会がない、地域活動の担い手が不足している、行政の財政基盤が不安定である

ニーズ：誰もが地域づくりに参加しやすい環境の確保や、広域的連携なども活用した持続可能で健全な行政運営の確保が必要である

▶将来人口

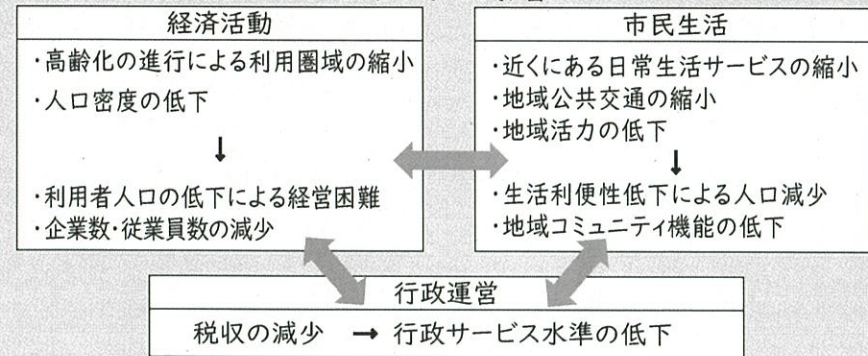
- 厳しい人口減少が予測される中（R16年の推計値：約166,000人）、将来のまちの活力や生活利便性を確保するため、子育て環境や住環境の充実など総合計画に定める施策を実施することによって子育て世代の転出入の均衡を図り、人口減少のスピードを緩やかにすることをめざします。

▶都市構造

<見直しの視点>

岸和田の特性、社会状況の変化、将来像や基本目標、岸和田を強くする“3つの戦略”等を踏まえつつ、「都市構造」の見直しを行います。

課題：人口減少・超高齢社会がまち・生活に与える影響



- 都市構造の方向性：
- ・無秩序な市街地の拡散を抑制
 - ・生活を支えるさまざまな機能が集積した拠点を適切に配置・形成されるよう誘導するとともに、拠点へのアクセス性を高める
 - ・広域連携の強化

<見直しの骨子案>

※下線表示：見直し箇所

● 広域連携型都市構造

人、物、情報が流れ、さまざまな交流と活動の活性化を推進するため、多様な連携を図ります。



広域連携型都市構造概念図

○地域連携

地形や水系に沿って形成された自然・文化・産業など本市の多様な資源を有機的につなぎ・活かすため、海から山までの連携を推進

○泉州地域広域連携

関西国際空港をはじめとする泉州地域の資源やストックをつなぎ・活かすため、近隣市町とさまざまな場面で広域連携を推進

○大阪・関西圏広域連携

大阪・関西圏の魅力を高め、岸和田市の活性化につなげるため、広域ネットワークを活かした連携を推進

● 土地利用の基本方針

- ①山地・農地・市街地のバランスは、おおむね現状を保ち、環境との共生を重視した土地利用を推進
- ②景観、歴史、文化など地域の資源や個性を大切にするとともに、コミュニティのまとまりに配慮した土地利用形成を推進
- ③都市活力を再生する計画的な市街地の再編と整備に努め、産業振興と居住環境が調和した土地利用形成を推進
道路、鉄道、港湾など広域的輸送手段と連携し、効果的で持続可能な交通ネットワーク形成と生活・社会経済活動を支える都市的機能を備えた拠点形成を推進
- ④地形、地質、水系などの土地のもつ自然的条件に留意した土地利用を行い、災害に強いまちづくりを推進

● 拠点の設定

鉄道駅や交通結節点周辺に、地域の生活を支えるさまざまな機能が集積した拠点・産業の拠点など、地域特性を活かした拠点形成を推進



● 区域別の土地利用方針

4つの区域 本市は、地形に沿って帯状に形成された土地利用の特性から4つの区域に区分

- 臨海区域 (おおむね海岸線～大阪臨海線)
 - ・工業・流通・港湾業務及び供給処理業務機能を担う地域
- 都市区域 (おおむね大阪臨海線～泉州山手線)
 - ・住宅・商業・工業などの用途を計画的に配置
 - ・各鉄道駅周辺及び幹線道路沿道は、商業・流通・業務機能を担う地域
 - ・市街化調整区域内農地や都市農地の保全・活用
 - ・泉州山手線の延伸に応じて、交通結節点を中心に地域特性を活かした広域交流拠点の形成と産業創出
- 田園区域 (おおむね泉州山手線～阪和自動車道)
 - ・農業振興機能を担う地域
 - ・丘陵地区に地域資源を活かした地域拠点の形成と産業創出
 - ・幹線道路沿道は、地域経済の活性化を目的とした産業の立地については周辺土地利用との調和と環境保全を図りつつ、適切に誘導
- 山間区域 (おおむね阪和自動車道～府県境)
 - ・森林を中心とした自然環境・景観の保全された地域

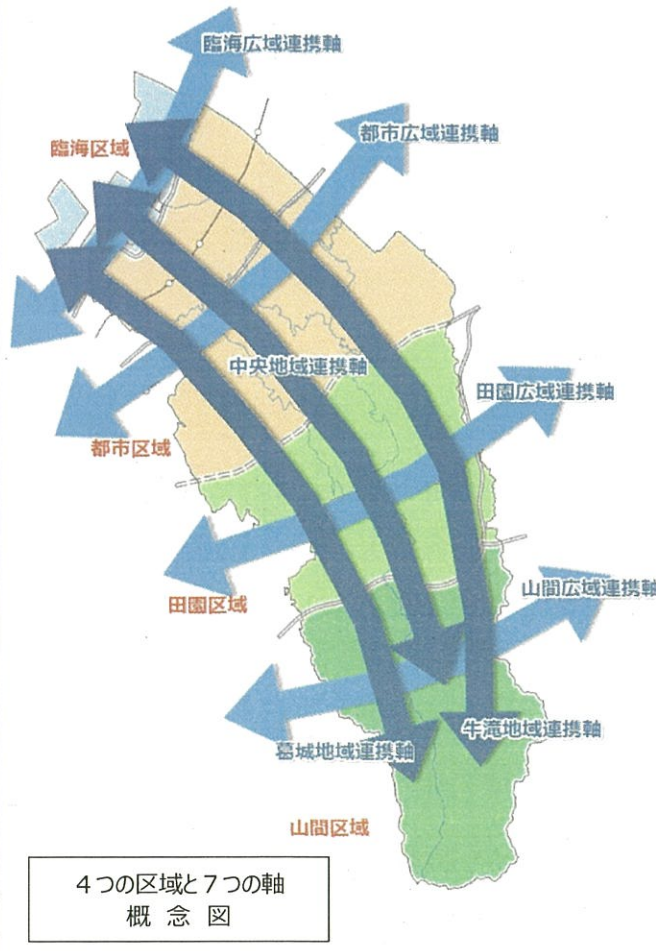
● 軸の設定

7つの軸 帯状に形成された4つの区域を結び、人、物、情報が流れ、様々な交流と活動の活性化を図るために市内を結ぶ「地域連携軸」と、泉州地域や大阪・関西圏を結ぶ「広域連携軸」を設定

地域連携軸により海と山をつなぎ、地形や水系に沿って形成された自然・文化を有機的につなぐとともに、地域連携軸と格子状をなす広域連携軸により、市域内及び市域を越えた交流・活動の発展を推進

<軸の機能と主な路線>

- 地域連携軸
 - ・葛城地域連携軸 (葛城の谷沿いに市域を結ぶ) 府道岸和田港塔原線・津田川水系
 - ・中央地域連携軸 (市の中央部に市域を結ぶ) 府道春木岸和田線・春木川水系
 - ・牛滝地域連携軸 (牛滝の谷沿いに市域を結ぶ) 府道牛滝山貝塚線・牛滝川水系
- 広域連携軸
 - ・臨海広域連携軸 (臨海区域で市内外を結ぶ) 阪神高速4号湾岸線、府道大阪臨海線
 - ・都市広域連携軸 (都市区域で市内外を結ぶ) 府道堺阪南線、南海本線、国道26号、JR阪和線、府道大阪和泉泉南線、(都)泉州山手線
 - ・田園広域連携軸 (田園区域で市内外を結ぶ) (都)泉州山手線、国道170号
 - ・山間広域連携軸 (山間区域で市内外を結ぶ) 阪和自動車道



4つの区域と7つの軸概念図